

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	(福)苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市から千葉県、埼玉県で老人医療福祉医療について事業を展開しています。事業所は開設13年目。 ・利用者様を「お客様」にせず、自宅で生活していくために必要な家事や運動機能について職員と一緒にしながら維持、改善していくこと、訪問・通い・宿泊といったサービス調整で入所せずに自宅での生活が継続できることを目的としています。 ・認知症介護実践者研修に職員を積極的に輩出し認知症になっても住み慣れた地域で生活ができるよう地域理解や、周辺症状の改善に繋がるケアについて考え実践しています。
事業所名	健康倶楽部ゆざわ	管理者	南雲未来		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	2人	0人	3人	1人	0人	4人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	センター方式シートの活用方法や実施する事でどんな効果があるのかなど、もう一度職員全体に説明を行う。 地域のサロン等の理解を深めるために、湯沢町の認知症ケアパスを有効活用し、インフォーマルサービスについて理解を深めていく。 地域保健師や家族、地域の方との関わりを増やし、よりお客様に寄り添える支援の方法を見出すために、担当者会議を活用する。	センター方式シートの使用書式の変更を行ったが、使用する事のメリットを職員に周知することはできなかった。 認知症ケアパスを活用した、インフォーマルサービスの理解促進に努めることができた。 コロナ禍において、感染予防対策を講じながら必要な会議への職員参加を行うことができた。	これを読んで、皆さんが常にお客様の事を考え動いていることが分かった。 コロナ禍において大変気を使っていることがわかる。職員も気を付けてもらいたい。	お客様担当がよりよい認知症ケアを行えるよう、認知症介護実践者研修修了者とケアマネ、認知症介護実践リーダー研修修了者で、認知症対応チームを形成し、ケアの評価を行いながらお客様に合わせたケアを行えるようになる。 記録の電子化を含め、ipadを活用しICTを活発化していく。 職員個々がお客様の情報を読み込む時間を作り、ケアに反映させていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	今後も、お客様に居心地の良さを感じていただけるような空間作り(季節に合った設えや環境整備)を行っていく。(家具のレイアウトや掲示物、匂い、音など) 外からのお客様が入り易さを感じていただけるように、玄関前の案内表示の変更や入ってこられた時にお客様はもちろん、職員同士不快な思いなど与えないように接遇勉強会を開催する。	お客様に安心して過ごしていただけるしつらえや環境作りに努めている。華美にならず、幼稚にならないように気を付けている。 また、お客様にさせていただくことを重視しており、季節に合わせお客様が作った作品も展示している。 玄関にはインターフォンを押していただくようお願いの文章を掲示し、お待たせすることなく対応するように努めた。	昨年、昼食をフロアで食べさせてもらった。お客様が楽しそうに話をしながら食べておりよいと思った。 入ってきたときにも嫌な臭いなど感じたことはない。 事務所のカウンターに不在の際はと案内表示が掲示されたため、わかりやすくなったと思う。	新しい生活様式を取り入れた中でも、お客様が落ち着いて過ごせる環境作りを適宜行う。 屋外での相談スペースの設置も含め、施設に来られた方が安心して過ごせる環境を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	毎月発行する広報誌等で活動報告を写真付きで行い、地域との関りを家族にも伝えていく。2か月に一度は地域に施設の広報誌を回覧し、活動を広く周知する機会を作っていく。 包括支援センターがサロン等から依頼される「健康講話」等、協力できる題目の時には声をかけてもらい、積極的に地域に出向き関わりを増やしていく機会を作る。	今年度より2か月に1度、職員の活動をメインにしたお便りを作成し、地域に向け回覧している。今年度は、コロナ禍であるため、地域の方との交流の機会を持つことはできなかったが、施設の活動を知っていただく機会に出来たと考える。 コロナ禍にあって地域に出向いて施設を知っていただく機会を作ることはかなわなかったが、感染症予防の徹底をしたうえで地域との交流を活発にしていきたいと考えている。	今年はコロナ禍で地域との交流が持てなかったことは仕方がないことだと思う。そもそも町全体の行事がほぼなくなった。広報誌を通じて地域に出向くことはなくとも、楽しみを感じられるような活動をしていることがわかり良かったと思う。	認知症カフェや毎年行ってきた納涼祭の開催に向けて、前向きに検討し早期に地域の方との交流の機会を作っていく。 活動報告は継続し、地域の方に施設の活動について理解していただける情報を公表していく。 アクション農園への参加を活発化させることで、地域ボランティアとの関係性を構築する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	独居の方など、本人からの要望があった時だけでなく、必要と思われる時には、買い物など必要な支援を行い、地域で暮らし続けられるための提案を適宜行っていく。 認知症サポーター養成講座の依頼があった時には、キャラバンメイトを派遣し、認知症の方が地域で安心して暮らしていく事ができる環境作りを行っていく。	通い利用中など、日用品の買い物が必要な方にはお客様の希望する店に出かけ支援を行っている。また、これまで行きつけにしていた商店へもこちらから出向き、顔見知りの関係を構築するよう努めた。本人の希望や紅葉ドライブや外食にも出かけている。 12月には認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトを派遣し、JR越後湯沢駅職員の方に「認知症の方の対応」について話をする機会をいただくことができた。	昨年度の改善計画については、概ねできていると判断している。本人が住んでいる地域の人が会議に参加していただけるよう、会議役員への配慮をしている。地域の行事やイベントについてはコロナ禍で実施がなかったため、わからないという評価にさせてもらいたい。また、地域の心配な方へのかかわりについては、施設の職員だからといってすべてにかかわるのはとても大変だと思う。苗場カフェのような環境があればやりやすいが、今年度は評価することは難しいと思うため活動についてはわからない。	認知症サポーター養成講座開催時にはキャラバンメイトを講師として派遣し、認知症の方が安心して暮らせる町作りにかかわっていく。 認知症カフェの早期の再開やアクション農園倶楽部への参加を通じて、地域の心配な方に関わる場面を増やしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	前年度の外部評価で確定した改善計画に関する、進捗状況を毎回の会議で報告を行い、会議役員に改善状況を確認してもらう時間を作る。 会議の皆さまや、老人クラブ会長等から情報提供していただけるように、会議で発言しやすいように議事内容を精査する。 会議体では事故等の報告だけでなく、施設で行った行事や取り組みなどを可視化した情報も報告していく。	毎回の会議で、会議役員の方から会議に対しての意見・感想をいただけるよう努めた。前年度の外部評価で提案した改善計画を特別開くのではなく、会を進行する中で確認していただけるような実施内容にすることはできなかった。 また、会議の中で活動報告の他、勉強会や行事についても企画書やその時の写真も含め報告を行うことができた。	改善内容の進捗状況を評価することもあったが、毎回評価できるとは言えないのではないかな。地域で心配のある方の事例検討については、地域での見守りが必要である方などの情報は上がりにくい現状と感じる。地域での取り組みについては、一緒に行う取り組みがなく評価することが難しい。町の取り組みにかかわっているというが、その話が表に出てこないため、やっていることは会議体等を通じて口頭でも話してもらえれば、さらに評価につなげられると思う。	地域の奉仕作業やその他の活動について一緒に活動した記録や、町の取り組みにかかわった内容については会議の中で報告していく。 外部評価の改善対策の進捗を毎回の会議の中で報告を行うことで、確実な改善の機会を作っていく。(レジュメや活動報告書を活用する)
F. 事業所の防災・災害対策	AED設置場所である事を地域の方に周知し、福祉避難所としてだけでなく、緊急時には頼っていただけることを広めていく。 災害備蓄品の品目・量、保管場所をリスト化し全職員に周知する。 次年度の運営推進会議は施設の防災訓練実施日に行い、施設での訓練の様子やお客様、地域のことを知っていただく機会にしていく。 子供110番への登録を行い、地域との協力体制を強化する。	7月に湯沢学園より子供110番の家の登録票を交付していただいた。AED設置場所については、設置場所登録の準備を進めている。次年度には完了するよう努めていく。また、今年度は感染症及び災害のBCP作成を急務として法人全体で取り組んでおり、感染症に立ちしてのBCP策定については完了している。 11月には、会議役員の皆様から防災訓練の様子を見学いただくことができ、今後の訓練実施に対して貴重なご意見をいただくことができた。	防災計画については見たことがない。 今年度は町の防災訓練を行う年ではなかったため、実施する年には参加しているのであれば参加できているということよいと思う。11月に防災訓練に参加させてもらい、思った以上に利用者が動けることに驚いた。 災害の時には間違いなく役に立つと思っている。	毎年第1回の会議において施設の防災計画を資料として配布し、施設の対応についてお知らせする。 防災訓練への見学する機会を作るだけでなく、感染症や災害のBCPも見ていただき有事の際に、施設が行う活動についてご理解いただく。